

会報 安曇野教育

第47号

発行所 安曇野市教育会
 発行人 藤松 伸二郎
 編集 会報委員会

発行日 平成27年7月21日
 題字 川田 殖

「寄り添う」とは、お互いの信頼関係が前提であり、教師だけが寄り添っても駄目であり、子どもだけが先生に寄り添っても駄目で、お互いに寄り添い合わなければ寄り添ったというとは成立しない、そしてそのためには「お互

子どもに寄り添うこと、私自身も日ごろからこの「寄り添う」という言葉をいろいろな機会に用いています。最近改めてその意味をもう一度考え直してみる必要があるのではないかと思うことがあります。

以前に先輩の先生からいただいた「奥村秀夫先生講演記録集」を書棚から見つけ、読み返してみました。

「寄り添う」ことは、「近づく」ことであり、別の言い方をすると「親しくなる」こと、そしてそれは「安心できる」ということにつながっていく。安心できることは、「全てを任せることができる」こと、すなわち「信頼できる」間柄へと及んでいくと奥村先生はお話されています。

子どもに共有できるものを持つ」、「共に感ずるものを持つ」、そういう時にこそ成立するものであると。子どもに寄り添うことで教師と子どもの信頼関係の絆を強め、子どもが無心に浸り込む姿を見いだせる教師でありたい、そのためには教師自身が子どもを理解や教材研究を深めることで

寄り添うこと

副 常 任 委 員 長
丸 山 福 一



「教師は一人では教師になれない」という言葉も聞いたことがあります。今ある子どもの姿から新たな子どもを理解を深め、指導や支援のあり方を求めながら教師として

協働して研鑽を積んでいくことの意味は益々高まっているように思っています。

今、地域や家庭・子ども達が年々変わりつつある状況下、また直面する教育課題が私たち個人々人として力を高めるだけでは解決が難しいほどに複雑化・多様化の一途をたどる中、私たちが共々に専門性を高めていくために

自らの感性を磨く不断的の努力を重ねていくことが欠かせないと結んでおられます。

この専門性を共に磨き合い、職能の向上を目指す場や時が大切になってきているのだと感じます。

今年も夏休みが目前に迫ってまいりました。日ごろの忙しさから離れ、じっくりと研修に向かうよい機会かと思えます。安曇野市教育会伝統の実技講習会が本年度もこの休みに開催されます。十八講座が開講され、それぞれ魅力ある内容で準備が進められています。学校や職種を超え、先輩後輩や仲間の顔が見えるつながりを大事に、共に学び続ける姿がそれぞれの講座の中に大きく広がっていくことと思えます。

こうした研修等に身を置きながら、子どもに寄り添う教師としての感性を磨き続けていきたいものと思えます。

五月に行われた教育会総集会では、木村素衛先生の四女である張さつき先生に大変感動的なご講演をしていただきました。この講演に重ねるように木村素衛委員会の柳川委員長より、人間味あふれる日記の数々を紹介していただきました。判読は困難を極めているというご苦労も知ることができました。

社会科資料編集委員会は、二十八年度の改訂に向けて、いよいよ七月からは調査対象の原稿作成が始まります。毎年企画画していた「安曇野巡検」は拾ヶ堰を辿ります。大勢の先生方の参加を期待しています。

「教育課題委員会」では、『体力向上』に関わって二年目を迎えました。昨年度の成果と課題を踏まえ各校の体力向上に向けた取り組みを調査研究していきます。昨年度の取り組みにつきましては、市の広報『あづみの』にも公表されました。本教育会の活動がこのように外に向かっていろいろな形で発信されることも期待しています。

各種委員会に期待するもの

担当常任委員 筒井 年恵

昨年度の活動の成果は「あしあと」にまとめられています。人物読み物委員会のページは、資料としてそのまま印刷していただくことができます。それぞれの委員会

合計十四の委員会が活動しています。今年度進路指導委員会がキャリア教育委員会に名称を変えま

合

合

合

各種委員会年間活動計画

④体育授業の改善、充実
⑤啓発活動の推進

◎委員長 ○副委員長
・委員
▽研究テーマ ▼内容

調査研究委員会

教育課題委員会

「安曇野市体力向上委員会」としても活動

- ▽①安曇野市の子どもの健康や体力・運動能力の現状を理解し、課題と原因を考える。
- ②健康・体力・運動能力の向上や生活習慣改善のための具体的な方法を検討し提言する。
- ③幼・保・小・中が連携・一貫して、取り組む方策を検討し提言する。
- ▼①生活習慣の実態と改善

人権教育委員会

▽「豊かな人権感覚を育てるための指導のあり方」

- ▼①各学校の実践を集め、資料集に資料を追加し充実させる。
- ②小中学校の人権教育のつながりについて検討する。
- ③人権教育強調旬間等の実施内容について情報交換しあい、講演会の講師や内容を記録として残し、活用できるようにしていく。

図書館教育委員会

▽図書館利用が有効である活動を中心とした「図書館利用の年間計画」の立案について

- ▼①中信図書館大会を機に、指導

案を参考にしながら、より有効な図書館の利用の仕方を考える。

- ②各教科や学校生活で、どのように図書館を利用していくのかについて、「図書館利用の年間計画」を作成する。
- ③各学校で行っている読み聞かせの実践や図書館教育の工夫点等を持ち寄り、紹介し合う。



生涯学習委員会

▽地域に根ざした生涯学習のあり方についての研究

- ▼①各校における「生涯学習活動状況」「社会人講師の活用状況」を調査・整理し、紙ベースで各校に情報提供する。
- ②親子「陶芸教室」の実施。好評の「親子陶芸教室」を引

き継いで、内容を検討し実施する。十月下旬実施予定。

環境教育委員会

▽環境への配慮行動の促進と環境問題に対する理解を深めることを目指す環境教育の在り方

- ▼①環境教育の実践アンケートを行いそれぞれの学校での実践や関わりのある外部団体を委員の皆さんに紹介することで、環境教育の促進を図る。
- ②安曇野環境フェアの環境活動発表会やブース展示に参加し、環境活動の輪が広がるよう努める。
- ③電気の使用量を調べたり授業参観を行ったりし環境教育に関する情報を収集していく。

特別委員会

社会科資料集編集委員会

▽安曇野市子どもたちが、自分たちの住んでいる地域を体験的に学習できる社会科資料集を編集する。
〓二十八年度改定に向けて〓

- ▼①最新の安曇野市の姿を取り入れ、使い勝手の良い二十八年度版資料集に改定する。
- ②昨年度から収集した写真やデータをもとに原稿を作成し改訂版に反映させる。
- ③「安曇野巡検」では拾ヶ堰を取り上げ、授業に生かせる情報提供をする。

キャリア教育委員会

▽安曇野市におけるキャリア教育の現状と展望
〓望ましい小中学校におけるキャリア教育の進め方と指導方法のあり方を探る〓

- ▼①各学校のキャリア教育の実際について調査活動を行い、課題について検討していく。また、キャリア教育の四つの視点をもとにした授業実践の分析と考察を行い、キャリア教育の成果と今後の課題を明らかにしていく。

人物読み物委員会

② 「平成二十七年出版進路学習資料集」の内容を検討し、改訂版を作成し頒布する。

▽安曇野の偉人(人物)について調査研究し、児童生徒への教材化を視野に入れながらその業績をまとめる。

▽安曇野の偉人(人物)について各委員が分担し調査研究を行う。その際、講師の指導などを受けながら研究を深め資料をまとめていく。また、教育会のホームページへのアップも考えていく。

木村素衛委員会

▽木村素衛先生の日記等遺稿文献及び西田幾多郎先生の木村先生宛書簡の整理・研究を通して、安曇野市教育の拠り所である木村先生の徳を追慕し、その生き

方を学ぶ。

① 木村先生の日記No.三十八とNo.三十九を読み合わせる。

② 多くの一般会員に木村先生の教育愛にふれてもらえるように、読み合わせたものを現代仮名遣いに書き換え、資料として保存していく。

③ 「安曇野市教育会総集會」での会員発表、「安曇野の先人等に学ぶ会」や会報・ホームページ等で木村先生の日記について読み合わせや紹介を行い、木村先生の徳を伝える。

郷土文化財センター 運営委員会

▽センター内の所蔵品の維持管理とリーフレットの改訂をすすめる。また、教育会の諸行事に併せ、常設展示の工夫や会報、ホームページの活用を通して会員への広報活動を行う。

① 新任者歓迎研修会や安曇野の先人等に学ぶ会、哲学講座に併せ、センター開放日を設定し展示を工夫し、多くの会員が見学できるようにする。
② 会報の「郷土の文化財」コーナーに調査した所蔵品等を

展覧会運営委員会

紹介したり、詳細をホームページに掲載したりして多くの方に関心を持っていただけるようにする。

▽科学展・書道展・図工美術展・ものづくり展を開催し、市内の児童・生徒の自然事象への興味関心を高めるとともに、表現・製作活動への意欲の高揚を図る。

▽同好会等と連携しながら、教育会主催の四大展覧会の作品募集と審査、展示を企画運営する。入選者には賞状を授与する。

会誌委員会

▽安曇野市教育会の会誌「安曇野教育」十号を発行し、会員の教育実践や研修内容を会員や地域の方に知って頂く。
▽会員の教育実践研究や意見、県外視察研修報告の他、本教育会独自の企画「巻頭座談会」やシ

広報委員会

リーズ「先輩こんにちは」「郷土の博物館・美術館」などを掲載する計画である。現在は執筆者募集段階に入っており、発行は例年通り二月末を予定している。

会報委員会

▽会報『安曇野教育』の編集・発行を行う。本教育会の行事や事業内容、各種委員会の様子や同好会の様子について掲載し、機関紙としての使命を果たす。
▽会報四十六号から五十号の発行(六月、七月、九月、十二月、三月の予定)。また、必要に応じて速報を発行する予定。

情報委員会

▽視放研を支援するホームページ更新を行う組織作り
① 教育会ホームページの更新
・ 視放研安曇野大会に関する情報の掲載
・ 基本データの更新

東西南北

「行き交う教室」

- ・ 個人情報に配慮した会報掲載
- ・ 会員以外の方にも参考となる資料の掲載
- ② ホームページ作成ガイドラインの確認・徹底
- ③ 情報モラル教育マニュアルの確認・徹底

ピース!

校長先生、写真撮って!

校長先生、絶対調!

教室へ入る私を低学年の子どもたちの屈託のない笑顔が迎えてくれる。直前まで黒板に集中していた高学年の子もチラリと視線を私に向け、ニコツと微笑む。

これでもできるだけ授業のじやまにならないようにと、気を遣いながら戸を開けているつもりだ。

そんな私の緊張感が一挙に緩む。「どうぞ見ていってください」「いつものようにがんばって勉強しているよ」というメッセージが子どもたちの姿から伝わってくる。

学年やクラスの応対の仕方に違いはあっても、いつ、どんな時でも訪問した人を迎え入れようとするウエルカムの心。僅か二、三秒の心の交流が大切にされるからこ



安曇野市教育会の先輩であり初代会長の岡村千馬先生の遺徳を偲ぶと共に、安曇野にゆかりのある諸先輩の生き方に学ぶことを目的に、「安曇野の先人等に学ぶ会」が六月二十日（土）に開かれた。午前には、役員が三郷中萱にある岡村千馬太先生のお墓をお参りし、午後には、松本市城山公園にある岡村先生の碑の前で碑前祭を行った。本教育会の先輩の方々と役員が参加し、松本市教育会長勝野恒

安曇野の先人等に学ぶ会

（穂高北小学校長 中村真市）

そ際立つその後の集中力。北小で大事にしている「普段の姿」がそこにある。ありがとう！先生方。

彦先生も参列してくださった。会場を南安曇教育文化会館に移し、約五十名が参加して、会館南庭の木村素衛先生と務台理作先生の碑に拝礼をした。その後、大会議室で学習会を行った。

前半は、元南安曇教育会長の山田芳弘先生から『東西南北会の系譜につながる小松進先生（その氣骨稜々にして人間味あふれる師）』と題して、講演をいただいた。戦前南安曇教育会を八年務められた小松進先生について、「教師の人格向上が教育改革の根本である」とした東西南北会の結成、「教育は国家の大計なり」「一切の責任は校長が負う」と常磐小学校長時代に校舎の移転改築を主張し続けたエピソードなどから窺われる先生の人となりをお話しいただき、現在の我々へのご示唆をいただいた。後半は、木村素衛委員会委員長と哲学同好会幹事長にご協力いただき、木村素衛先生の日記の読み合わせを行った。

事業推進連絡会

安曇野の先人の信念や高い志に触れて自己を見つめる機会となり、意義深い一日だった。

七月二日（木）教育文化会館で

第一回が開催された。新田次郎著『聖職の碑』から「教師が手間を



惜しまなければ子どもはよりよく育つ」という一節を引いた藤松伸二郎会長（豊科南中）の挨拶の後、各校代議員による協議が行われた。

まず、五月に開催された教育会総集会を振り返った。張さつき先生の講演が大変好評であったこと、運営に関わる様々な工夫により会員の出席率が増えたこと等が成果として上げられた。後半は、本会で昨年度課題となった同好会活動の活性化について、小グループで協議をした。協議内容を全体で共有する場面では、「同好会に所属して『よかった』と実感できるような具体的活動が活性化の要

である」「活動の充実こそが同好会の意義やよさを広く発信し、会員に限らない共に学ぶ仲間の輪の広がりに繋がる」「他郡市の取り組みに学ぶべき点多々ある」等々、活発に意見交換がなされた。連絡会終了後には、避難訓練と清掃が行われた。会館の清掃では、教職員組合執行部の先生方と共に、参会者全員で、フロアの雑巾がけや窓ふき等、施設の隅々に至るまで手を入れた。会館は築二十四年である。現在の美しさを保っていくことができるよう、今後も

おわびと訂正

感謝の気持ちをもち、大切に使用していきたい。

第四十六号六頁の「初任者歓迎研修会」の記事において誤りがありました。初任者を代表し決意を述べられたのが 先生とありましたが、正しくは 先生とあり

編集後記

生（明科中）です。ここにお詫びし、訂正いたします。

原稿をお寄せいただき心から感謝申し上げます。各委員会の益々の充実と発展をお祈りします。

郷土の文化財 ②⑦

「郷土文化財センターの蔵書」

郷土文化財センターの中には書庫があり、これまで購入してきた書籍や寄贈いただいた書籍、教育会が出版した書籍など、多数収蔵されています。それらの中には、本教育会や信濃教育会の歴史に関する書籍、本教育会にゆかりの深い人物に関する書籍などがあります。現在、展示ケースには、会誌委員会編集の『安曇野教育』、安曇野市教育会の前身である南安曇教育会の『南安曇教育』を、創刊号からそろえて展示してあります。

また、最近新たに、社会科資料集編集委員会編集の小学校社会科資料集『わたしたちの安曇野』と、進路指導委員会（現キャリア教育委員会）編集の『進路学習資料集』を、改訂の順を追って展示しました。



（郷土文化財センター運営委員会）

郷土の資料を探したい、安曇野市の資料がほしい、教育会の歴史を知りたいなどというときは、ぜひ一度お立ち寄りください。